

ジャパンメディカルリーグ(JML)軟式野球 「医療従事者が求めていた大会」 スポーツプロデューサー・杉山茂さんに聞く

長引く新型コロナウイルスの影響を受ける形でスポーツを取り巻く状況が様変わりしています。スポーツプロデューサーで、公益財団法人ミズノスポーツ振興財団評議員を務める杉山茂さんにコロナ禍のスポーツ界や、感染症対策を担う医療従事者を応援する「ジャパンメディカルリーグ(JML)軟式野球大会」への期待などを聞きました。

——無観客開催などプロスポーツの観戦スタイルが大きく変わりました。

◆人々の日々の暮らしに安らぎや、潤いをもたらしてくれるのがスポーツの力でした。スポーツのエンターテインメント(娯楽)性の要素である会場での臨場感、立体感が失われると魅力も阻害されてしまいます。競技者側もこれまで当たり前だった拍手や声援が消えたことで、観客が改めてかけがえのない存在であることに気付いたでしょう。

——技術の進化で遠隔でもスポーツが楽しめるようになりました。「ポスト・コロナ」の観戦スタイルは多様化するのでしょうか？

◆コロナが収束して世の中が正常に戻れば、ファンやサポーターは会場に戻ってくると思います。選手と同じ風を受けて観戦するのがスポーツの醍醐味ですから。東京オリンピックが終わった後は会場で生で見たいという観客は増えるはずです。

——コロナ禍と闘う医療従事者を応援するJML大会の意義をどうとらえますか？

◆スポーツを自分の健康管理として日常生活に組み込んでいる医療従事者は多いと思います。ある意味、そうした皆さんが求めていた大会ではないでしょうか。青空の下に集い、自然と触れ合いながら、体を動かす点も素晴らしい。患者さんとの会話の中にスポーツの話題が上ることコミュニケーションも深まるでしょう。

杉山 茂 1936年、東京都生まれ。NHKのディレクターとしてスポーツ番組の企画、制作などに携わり、スポーツ報道センター長などを務めた。退局後はリーグ理事、サッカーの2002年ワールドカップ日本組織委員会放送業務局長、慶大大学院健康マネジメント研究科客員教授などを歴任。

一般社団法人日本メディカルスポーツ協会は、

スポーツを通じて医療現場のメディカルスタッフの心身の健康を養い、

国民の健康に資するため適切な医療を提供できる基盤作りに寄与します。

スポーツには一つの目標に向けチームを収斂する力があります。

医療・介護を担う医療従事者が願ってやまない国民の健康という目標に向け、

一致団結するためにもスポーツを通じて医療従事者の心と身体の健康を増進してまいります。